

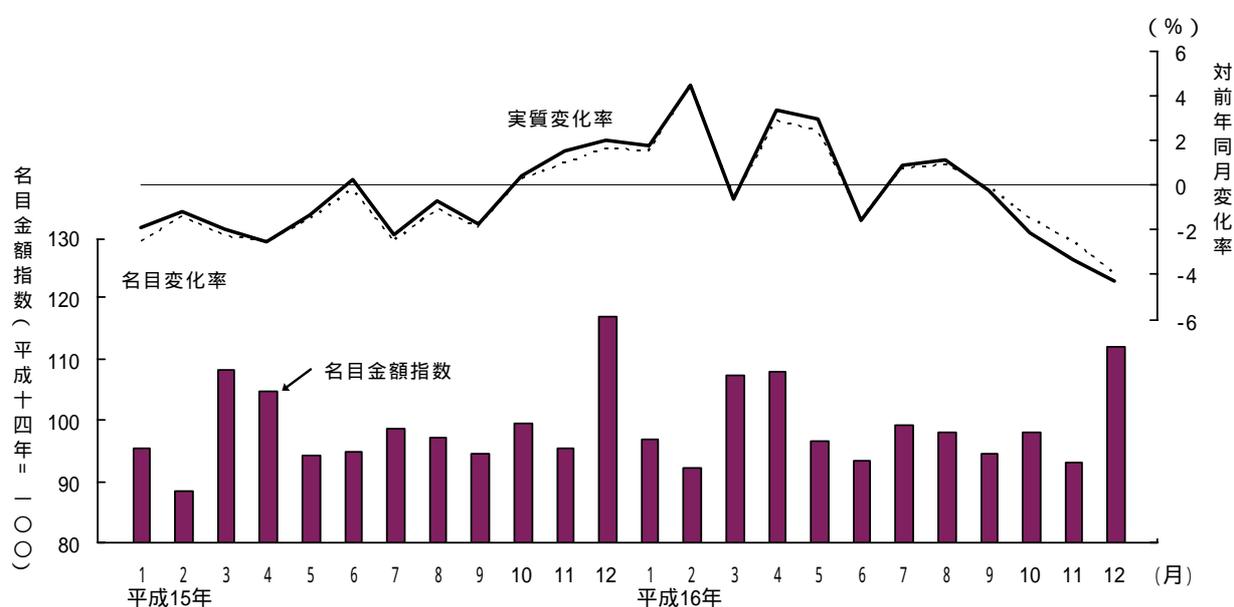
5 家計消費指数の動向

(1) 消費支出の推移

家計消費指数は、家計調査結果のうち毎月の購入頻度が少なく、また結果が安定しにくい高額な商品やサービスを、家計調査とは別に実施している大サンプル調査(「家計消費状況調査」)で補完した結果を指数化したものであり、家計消費の動向をより安定的に把握することを目的に作成している。なお、指数は、平成14年1月分から作成している。

平成16年の動きをみると、前年同月に比べ1月は実質1.8%の増加、2月は実質4.5%の増加となった後、3月は実質0.6%の減少となった。4月、5月と2か月連続の実質増加となった後、6月は再び実質1.6%の減少となった。次いで7月、8月は2か月連続の実質増加となったものの、9月以降は4か月連続の実質減少となった(図17)。

図 17 家計消費指数の消費支出の推移(全国・全世帯)



	平成16年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
消費支出												
名目金額指数	96.7	92.3	107.2	107.7	96.4	93.4	99.2	98.0	94.4	97.9	93.0	112.0
対前年同月変化率(%)												
名目	1.5	4.4	-0.7	2.9	2.4	-1.6	0.7	0.9	-0.1	-1.5	-2.5	-4.0
実質	1.8	4.5	-0.6	3.4	3.0	-1.6	0.9	1.1	-0.2	-2.1	-3.3	-4.3

(2) 家計消費指数と家計調査の消費支出の推移

平成16年の家計消費指数の対前年同月実質変化率と家計調査の対前年同月実質増減率を比較すると、家計消費指数は、家計調査結果では増減幅が大きくなった2月から6月は家計調査よりふれ幅がやや小さくなる傾向にあった。7月から10月までは家計消費指数と家計調査はほぼ同程度で推移したが、11月及び12月は家計消費指数は家計調査より低く推移した。このため年平均では家計消費指数(+0.1%)、家計調査(+0.5%)ともに前年に比べ増加となったものの、家計消費指数の方が低くなっている(図18)。

図 18 家計消費指数と家計調査の対前年同月実質変化率(増減率)の推移(全国・全世帯)

